

卑劣という感覚を麻痺させるもの——無神論、虚無主義、 米内乱の根源

Greatchain

2020/07/27

「卑劣という感覚が麻痺したとき——人間やめるがよろし」という論文を、私は 2018 年 3 月に書いた。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180314.pdf> そこにこう書いた。

「シリアの子供たち：我々が決して忘れることのないように」という論文の、読者のコメント欄に書かれている文章を先日、紹介した——「こうした残虐行為が起こるためには、多くの人々が一致協力して、それが起こるようにしなければならない。人間は不道徳、利己心、傲慢、かつサディスティックな動物である。」多くの人々が一致協力して、残虐行為を止めに入るべきところを、一致協力してクマのボスに加勢する。これほど反吐を催させる行動はない。シリアに潜入して実情——平和努力を装うプロパガンダの裏の残虐——を知った、ある女性記者が「デスピカブル」（卑劣な、ピにアクセント）を連発していた…。」

「残虐行為が起こるためには、多くの人々が一致協力しなければならない」——今アメリカでは、残虐な内乱や犯罪行為が、起こるべくして起こっている。それは騙しやウソや不誠実の文化として、巧妙な戦術によって、深くかつ広範囲に起こされたものである。それは多くの人々が騙されていながら、騙されていることを認めたがらない、文化を装った犯罪である。その典型的なものが、戦略としての無神論である。それがわかっている人々は、『悪魔の惑わし：無神論と科学者の思い上がり』の著者、数学者のデイヴィッド・ベアリンスキーのように、無神論科学体制を、恥ずべきもの、despicable なものとして見ている。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/190719.pdf> 人々はやっとこれに気づき始めた。

それは武器などを使わず、我々の犯罪文化の延長として存在する。数日前の NeonNettle のニュースに、「民主党知事を evil and despicable と非難した保守派の教授が、死体で発見される」という記事があった。民主党全体に対して、この言葉はまさにその通りである。しかし彼らはこの教授を殺さねばならなかった。おそらく犯行者は、良心の呵責も、犯罪の意識もないだろう。こんなことはニュースにもならないのが普通である。この種の暗殺は、アメリカでは当たり前のことで、ベンジャミン・フルフォード氏は、これを「ティッシュペーパーを一枚使うようなもの」と言っていた。サイコパス文化の極致である。



UNC の Prof. Mike Adams、民主党に対する論争後、自宅で死体で見つかる

以下、終わりまで、SOTN の最新のニュース解説「グローバリストの、アメリカを滅ぼそうとする超極秘計画が暴かれる」を、訳すことにする。

COVID-19 作戦

やらせの人種戦争、

トランプに対するソフト・クーデタ、

2020 選挙の混乱、

民主党の大逆と犯罪、

共和党の無関心、

開かれた国境と不法外国人

BLM、ANTIFA、SUNRISE テロリズム

郊外の自治ゾーン、

警察を廃止せよ運動、

軍事的 LGBT 運動

FBI、DOJ、CIA の腐敗

ニセ旗集団乱射、

強制的ワクチン

5G の軍事的展開

それに、アメリカ経済の崩壊

これらそれぞれの項目の、アメリカ共和国への攻撃に、共通しているのは何か？

答え：それはアメリカ合衆国を破壊するための、念入りに、オーケストラ的に統制された、多数のとがった先をもつ、何十年もかけてできた、グローバリストの戦略である。

[補足だが、訳者は、これらに共通の**心理的な特徴**を、サイコパス（良心の完全な欠如、ソシオパスともいう）だと考える。集団的特徴としては、日本人にこれはまれであろう。]

2020年を通じて、これらの、また他の多くの、アメリカ人民に対して行われた密かな攻撃は、この国の自由落下的な崩壊をもたらすように、念入りに仕組まれている。New World Order 計画の実行は、アメリカ共和国の永久的な破壊があつてこそ、実現することができる。例によって、共産主義者と社会主義者、無政府主義者とテロリスト、ボルシェビキと反乱暴徒たちは、アメリカの都市部を引き裂くように教導されている。

暴動、抗議、暴力、略奪、商店破壊、それに自治ゾーンが、民主党の支配する聖域都市や州で、許され、喉けられているという事実は、この「紫革命」と言われるものが、どんな手段によってもアメリカ政府を覆すように、高度に組織された計画であることを証明している。

ここでもやはり、上にリストした地殻変動的な出来事のすべては、最高の劇的效果をもたらすように、目的をもって調整され、NWOの戦略に従って、「**問題—反応—解決**」という連鎖を生み出すように計画されている。

このようにして、グローバリスト犯罪者たちは、決定的な数量のアメリカ市民が、安全を感じて、自分から幽閉の合意を求めるまで、陰険なやり方で全国的に進められた、最大限の**安全保障牢獄**をつくり出そうとしている。

このようなヘーゲル弁証法の戦略を、密かに用いているのは誰だろうか？そしてその者は今日、どのようにして白昼堂々と、これをやってのけているのだろうか？

内在する敵は、アメリカを破壊しようとする社会主義者の計画である。

もしここに、タイムリーな分析があつて、今日、アメリカが直面しているのは何なのかを、最も的確に説明してくれるものがあるとしたら、それは下に掲載するビデオであろう。

SOTNは、この同じトピックで延長されたエッセーを書いていた。ここで我々は、アメリカで現在進行中の「紫革命」から、フランス革命、1917ボルシェビキ革命、そして中

国の文化大革命に及ぶ平行線を引いていた。しかしこの研究プロジェクトは、「ユーゴスラビアの分断」を取り込むのを忘れていた。これはアメリカ合衆国の、現行の「バルカン化（半島の分断化）」にも並行する、より時間的に近い出来事である。

ここに展開される分析は、NWO 計画や「深層国家」計略、またグローバリスト・ゲームプランに関して、より深い問題を避けてはいるが、その主要な目的は、単純な言葉を使って、アメリカ全体の基本的な現実を、説明することにある。もし、あなたの友人や家族、仕事仲間、また事業の知り合いに、すぐにでも見せたいビデオが一つあるとしたら、この高度な情報と深い洞察力をもつ作品を、真っ先におすすめる。

この気持ちよく正直なナレーターが、真実を語るユーゴスラビアの女性で、彼女がバルカン半島で直接経験したことが、今まさにアメリカの市民に起こっていることであるという理由で、このビデオの分析は、特別の説得力をもっている。彼女は明らかに、1990 年代初期に、自分の祖国で繰り広げられた赤裸々な現実を、知らせるとのこと以外に、どんな計画ももっていない。そのタイトルは――

「ユーゴスラビア問題：すべてのアメリカ人への警告」である。

<https://youtu.be/ixBsVodyJP0>